

取組事例 農村型コンパクトエコタウンの推進による住みやすさの向上

(沼田町)

沼田町は、病院、福祉、商業の核施設を、歩いて移動できる距離である500m以内に一体的に集約することで、雪国の不安や不便さを解決し、「オール沼田」で住みやすく活気のあるまちづくりを目指している。

関連数値目標・KPI

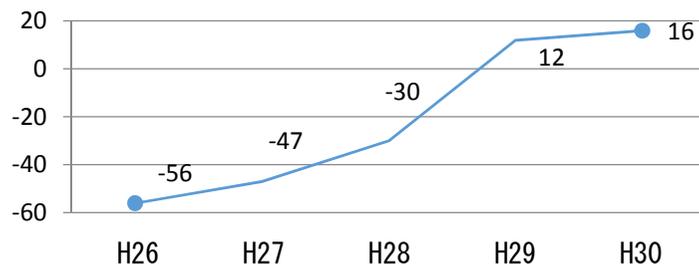
	基準値 (H26)	実績 (H30)	目標値 (H30)	進捗率 (%)
住み良くなったと感じた割合	41.5%	33.5%	50%	67%
町外からの移住者数	5件	9件	5件	180%

取組の推進体制

役場、商工会等、小中学校等、信用金庫等、社会福祉協議会等及び住民代表者から構成される「沼田町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」により、事業の検証を行い、官民の連携により取組を効果的に推進する。

社会増減の状況

社会増減数 (H26~H30)



複合施設の一体的な整備による住みやすさの向上と、地域ブランディング及び移住定住事業の推進により、社会増減数が増加する傾向となっている。

取組事例

「歩いて暮らせるまちづくり」と「移住定住」の推進

複合施設の整備によるにぎわいの創造

- 主な取組
 - ①H29「まちなかほっとタウン」建設
 - ②H29「暮らしの安心センター」建設
 - ③H30「乗合タクシー」運行

○主な成果

- ①では、チャレンジショップを活用したイベントが開催されている。
- ②では、トレーニング器具やカフェが人気であり、運動教室への参加数が増加している。
- ③により、町民の利便性が向上した。



移住定住の取組を強化

- 主な取組
 - ・デザインコンセプトブックの整備
 - ・空き家リノベーションによるお試し住宅の整備
 - ・移住コーディネーターの新設
 - ・沼田町の仕事に限定した無料職業紹介所「ぬまわーくサポートデスク」の開設

○主な成果

- ・町外からの転入者がH26年の87名からH30には112名となり、年々増加傾向にある。

